

## くわがた虫

松本 壮史 美唄市立東小学校 (2年)

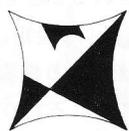
第19回北海道教育美術展奨励賞作品

評 とても大きいくわがたですが、かわいくかけました。角、口、足や尾をよく観察しています。

### 目次

ようこそ 旭川大会へ……………2  
 旭川大会に期待します……………3  
 造形ひろば……………4・5

わたしの学校・わたしの実践……………6  
 たのしみな20回展……………7  
 サクラクレパス・あとがき……………8



# 北海道 造形教育 連盟報

No. 95 1993.7.24 発行

発行 北海道造形教育連盟

事務局 〒065 札幌市南区真駒内泉町3丁目

札幌市立真駒内南小学校 白井 罔 毅

☎011-581-0221



## ようこそ 旭川大会へ

第43回全道造形教育研究大会・旭川大会の開催にあたり、全道各地から道北の拠点都市、旭川市において下された皆様を心から歓迎申し上げます。この旭川大会は、昭和61年の第39回全国造形教育研究大会と兼ねて第36回全道造形教育研究大会が開催されてから7年振りの大会です。

今回は「つくる心の広がりと深まりを求めて」をテーマにした研究大会でした。前回の大会はイメージを引き出し、気づきを大切にする手だてを位置付けた学習過程をはじめ、牛乳パックを使った家づくりや空き缶遊びなどの廃品を利用した表現や身近なもの、あるいは、丸太やウッドクラフトなどの材料、更には、冬のスポーツをテーマとした旭川の地域性が生きる題材を工夫するなど、子どもの生き生きとした表現を促し、喜びをもって表現できる子供を育成する実践として高い評価をいただきました。

ひと口に7年振りとは申せ、世界をとりまく情勢をはじめ、我が国の政治、経済、教育界にも大きな改革の波がおし寄せて参りました。バブル経済の崩壊、小中学校指導要領の改訂、小学校では、生活科の新設、中学校では選択教科の拡大、又、学校五日制の導入による第2土曜日の休業日と変化のあった7年間ではなかったかと思えます。

今大会は、前回からの実践成果を継承しながら、新指導要領の主旨をふまえ、図工美術の担う役割を果たすため、五感を働かせて判断し、試み、心を動かし、思いをふくらませながら表現していくような子どもの育成を目指すことにいたしました。

- 子どもは、五感を働かせて、からだ全体でつくり出したいと思っている。
  - 子どもは、思いを持ち、様々に試したいと思っている。
  - 子どもは、自分らしい素敵な夢を表現したいと思っている。
  - 子どもは、知恵やわざをみがき、表現したいと思っている。
- このような子どもの思いや願いを援助していく教師



旭川大会運営委員長  
(北海道造形教育連盟副委員長)  
**川島 信也**  
(旭川市東光小学校長)

のあり方として、次のような姿を考えました。

- 子どもの自由な発想を認める柔軟な感性をもつ教師でありたい。
- 子どもの主体的活動を温かく見守り、よき相談者としての教師でありたい。
- 子どもの様々な表現を、その子の魅力であると感じることができる教師でありたい。

このような考えを基に、子ども一人一人の確かな表現や感性の高まりを目指し、「思いをあたため、心はずませ、創る喜びを」をテーマに設定いたしました。

研究の視点としては、これまでの実践の成果を基盤にして、子どもの側に立った教育活動の展開を通して、一人一人の感性の高まりを求めるために、次の三点から研究を進めることにしました。

### 1. 題材の開発

- 子どもの多様な発想を引き出す、地域の自然や文化などを活用した教材の工夫。
- 指導のねらいに即し、一人一人の思いを深める教材の工夫。

### 2. 指導過程の工夫

- 子どもの心をはずませ、創造的な表現意欲を高める教材や材料との感動的な出会いや場の設定。
- 子どもの心をゆり動かし、感動体験を与える場の設定。
- 子どもが題材と深くかわり、主題に基づく豊かな発想を促す場の設定。
- 思いに応じて、心はずませて表現する時間や場の設定。

### 3. 評価の工夫

- 表現意欲を高め、表現の喜びを味わわせる評価。
- 参会の皆様方は、それぞれの課題をお持ちのことと存じます。その課題が少しでも解決されることを願っております。大会第2日目は「造形広場」を設定、又、日本写真家協会会員の奥田實氏の「自然をきり撮る」の講演は、北海道の自然を大いに語ってくれるものと存じます。この2日間の大会が更に来年の釧路大会につながることを期待しております。

第43回北海道造形教育研究大会  
旭川大会に期待します



北海道造形教育連盟研究部長  
菅原清貴  
(札幌市立三角山小学校)

はじめに

遠い空・白い残雪・そびえる大地。北海道の真ん中へ、どっかりと座って街が広がる旭川。

北の大地の真ん中に降る雪が、大雪の山々から平野へと流れ肥沃な土壌を積み上げてきたように、今この地から新しい造形教育の流れを感じ、北の大地に根付く様を見て取れることを嬉しく思います。

今こそ、造形教師としての自負を

東西冷戦の時代は終焉の時がきて、それまでの対立の構図は、新たな地平へとシフトしたかにみえます。

ところが、その地はこれまでの二つの大国の対立以上に複雑で混沌とした状況に世界を変えつつあるともみえます。新たな秩序を模索する過程の混乱なのかもしれません。しかし、人類に突き付けられている課題は、多様かつ複雑なものがあります。地球上のパイをバランス良く21世紀に配分していくことが、求められています。

このような変化の中、日本の果たす役割を真剣に考えなくてはならないでしょう。

通商産業省は、これからの日本に必要な価値観として『21世紀を目指したニュー・コンセプト』として次の四つを上げているそうです。

「美」…美意識（美しさの追求）

「感」…感性（鋭敏な感性）

「遊」…遊び心（心のゆとり）

「創」…創造性（独創的発想力）

遠藤友麗氏は、この“美感遊創”こそがこれまで美術教育がコンセプトとしてもってきたものであり、まさに美術教育そのものであると述べています。つまり日本の社会がこれまでの経済性・効率性のみの価値観から脱却し、新たな『豊かさ』への歩みを始めなくてはならないということだと思います。これは、世界のバランスある進歩と無関係のところにあるのではないと思うのです。美術教育の価値観としていたところに、今後の社会の価値観が近付いてくるということを我々の自負としたいものです。

今こそ、授業変革を

これまでの美術教育は、往々にして与えられた課題を、与えられた方法でこなし、教師の求める目標にいかに対応・到達するのかということに終始していたように思います。

これでは、よく言われる子どもの手を借りた教師作品でしかないわけです。

美術における新しい学力観をひとことでいうと『主体的創造力』であるといえます。表現や鑑賞の活動を子ども自らの意図に基づいて行うという、子ども主体の学習スタイルを確立する必要があります。

課題の設定をも含めて自分の意図や想にそって表現したり鑑賞する力が大切であり、『自分らしさ』を感じる活動や作品が求められます。

教師はその時、アドバイザーとして子どもの相談にのり、一人一人の子が造形活動を旺盛に進めていけるように支援する立場に立つことになります。

支援者たる教師の立場を構築することの必要性を、今こそ強く感じます。『指導の構築』という研究紀要をつくり続けた伝統ある当連盟として、新しい教育観に立つ、新たな『支援の構築』を指向することが大切でしょう。

そこで具体的に追求していく課題を4つに整理してみたいと思います。

- 1, 豊かな心とたくましさを育てる教育の充実の中で図工美術の担うべきものを明確にした授業づくりを行う。…主体的創造力を育てる学習スタイル
- 2, 基礎・基本の重視と個性を生かす教育の調和的な達成をどう実現させるか。…基礎・基本と個性
- 3, 造形活動の生活化をめざす自主的・自発的な学習の促進…生涯学習の中での学校教育の役割
- 4, 地域の特性を大切にされた造形活動の一層の充実を図る。…北の自然・人間から生まれる造形教育おわりに

4つ目の課題として、北海道の造形教育のアイデンティティを確立しようというようなことをあげました。すべての造形活動が東京や沖縄と同じ題材で終始する時代ではないでしょう。北海道らしさ、旭川らしさの漂う造形活動が展開してこそ、一層の『自分らしさ』が確立されていくのではないでしょう。

空の高さ・大地の広がり・温かな人の心から発散するエネルギーを感じながら壮快に活動する旭川の造形教育に学びたいと思います。

## 幼稚園における実践



札幌市立きくすいもとまち幼稚園  
吉田 耕一郎

## 1. 幼児期の子どもの姿

この時期の子どもが常に奔放で、屈託なく生活しているかと言えば、必ずしもそうではなく、少し気になる傾向が伺えます。一つには、集団の中に入って、自己を発揮できない傾向が強いこと。これは、なにもすぐに友達関係を作って遊ぶということではなく、一人であっても、積極的にというか、奔放に環境にかかわろうとする意志が低いということです。二つめに、形や結果にこだわりがあること。絵を描く機会を作ると、必ず「描けない」と言う子や漫画的な絵があふれるのが最初の実態です。

## 2. 安定からの出発

## ①幼稚園や教師との信頼関係の確立

とにかく幼稚園が楽しいところであり、そこにはおもしろそうなものがたくさんあり、そして信頼できる「先生」がいると思ってもらえるようにすることが、まず必要なことです。そうすることによって、本来もっ

ていた、旺盛な生活力を引き出せると思うからです。

## ②描くこと、作ることに對する抵抗感を無くす

幼児が行為の結果として作り上げた物に対しては、とにかく、ほめることの繰り返しだと思っています。いちいち、「ここはこうの方がいい」等と言うよりは、前回よりも変わってきたことを見取ろうと努力しています。したがって、全員一斉に同じテーマで絵を描くことがあっても、ねらいは一人一人にもつようにしています。ちなみに、今年度の4歳児に最初に描かせた絵は「落書き」でした。

## ③様々な素材、表現手段があることを計画的に提供していく

幼児に勝手に生活させているだけでは、幼児自身が飽きてしまいます。そこで、幼児の遊びの状態を見て、「何を求めているのか」という視点から、新たな環境上の変化をつけていきます。そうすることによって、多くの経験ができる機会となると思うからです。

## 3. おわりに

最近はいさしだけ子どもの育っている姿が見えるようになってきました。今年度は特に、育ちに準じた経験の系統性について、教材研究をしているところです。先生方からのご指導をいただきたいと思っております。

## 「学びの自立を考える」



札幌市立幌南小学校  
板木 武

本校は、今年度6年継続研究の1年目を迎えた。来年度の31回研究大会に向け、今実践発表を通して、自立する学習の姿を追い求めているところである。

個性を生かす学習のあり方を探った6年間の研究をベースにし、学びの自立を促す(感性を豊かにする)ための

## ①教材や活動の発掘

## ②活動を中心にすえた計画化のあり方

## ③学習集団のあり方

## ④教師の関わり(援助のあり方)

## ⑤日常実践のあり方

を窓口として、子ども像、学習像を探っている。

とかく知性、技能の面に偏りがちであった個性の見取りの反省に立ち、より多様に子どもを理解するため

には「感性」にも目を向ける必要が生まれてきた。

ひらめきや思い付き、様々な感覚を発揮し、それを磨く場は、まさに図工科教育の担う所であり、ますます造形教育が重要になってきたのである。

即ち、その子なりのひらめきや造形感覚を駆使し、自己表現の喜びや楽しさを味わうことを経験させることが大切なのである。

その経験が、活動意欲を生み出すと考えると、授業は、子どもの生活を豊かに創造するための場であり、生活に生きる、もしくは生活に発展するためのきっかけづくりの場であると考えたい。

そう考えると、題材の入り口は生活の中から、出口は生活の中で活用、あるいは生活の中で生きて働く力となると考えて、学習計画を立てることが大切ではないかと考える。

造形活動とは本来、生活をより豊かにしたいとの願いと密接に結び付いてきたのであるから、その原点に戻って、造形教育のあり方を考えてみたい。



## この頃思うこと

札幌市立真駒内南小学校  
大村 憲一

「先生！もっと紙つなげてもいいの——。」  
「あのねー。手がね。すんごくはやく動くんだよ。」  
1枚の紙からどんどんつないでいて、いつのまにか  
絵巻き物のようなものができあがったり……  
手が2本以上もある子どもがあらわれたり……  
こんな声が聞こえ、活動が見える教室の中。  
子どもたちのやわらかい感性が、こちらの意図を容易  
にとび越えていく。  
そのたびに、あたふたしている自分。  
そんな子ども達と  
「うん、いいなあ、それ。」  
「あー、そうなんだ。ふうーん。」  
「わあ、おもしろそうだねえ。」  
と一緒に共感、共鳴できる柔軟さを持つことがどん  
なに大切なことか。  
つついかたくなりがちな自分の頭（思考）、  
そんな自分が子ども達には、

「もっと工夫して！」  
「もう少し違う角度から見たり、考えたりしたら。」  
とか言っている。

子どもたちの持っている素晴らしい豊かな感受性や  
次々にわきあがってくる好奇心を見せつけられるたび  
にそれらがだんだんと希薄になってきている自分に気  
づき、ハッとさせられる。

この子どもたちがもっているものをつぶさずに、更  
に伸ばしていくとともに、子どもに負けない素直な心  
や何事に対しても興味を持って見つめる目、既成の事  
柄にとらわれない自由な発想力などを失くすことなく、  
もっともっとそれらを自分自身の中で意識しながら  
これからも子どもたちと毎日の生活を送っていかなけれ  
ばと自分を奮いたたせているこの頃である。



## 個性化・個別化と評定

札幌市立山鼻中学校  
小野 泰裕

豊かな感性・美しい心、それぞれの個性に基づく表  
現意欲・創造する喜び。

大きく発展した機械文明、あふれる物質文明、一方  
的に入ってくる雑多な情報化社会の中で、自らの心で  
感じ、自らの手で創り出す人間本来の素晴らしさを求  
める美術教育の重要性は、一層その度合いを増してい  
るように思う。

本来、子ども達は創ることが好きである。粘土をこ  
ねる時の土の感触や木を削っている時のおいを楽し  
む心を持っている。そして一人ひとりの心と手を加え  
ることで素材に命をふき込んでいく喜びを感じとっ  
ている。

個性化・個別化がいわれて数年になるが、いまさら  
ながら確かに大切なことであると思う。子ども達は一  
人として同じではあり得ない。感じる心も見つめる目  
も、表わそうとする手も全てが違う。あまりにもあた

りまえである。故に学習の中では、個々の生徒にどれ  
だけ目を向けられるか。またその子の個性を感じとり  
よりよく伸ばしていく手助けができるかが重要になっ  
てくる。10年程前の在独の頃ある交流会で、

「日本の先生方は力があるんですね。私たちにはとて  
も40人もの生徒は教えられません。」

と、ギムナジウムの先生が驚いていたのを思い出す。喜  
ぶべきか日本の現状を嘆くべきか。ともあれ、一人ひ  
とりの子どもに目を向けるべく努力している。能力の  
劣る子には、それも個性の一要素かも知れないが、認  
め、励まし、助言している。あの手この手を使いなが  
ら本来の美術教育の意義に近づこうと悪戦苦闘してい  
る毎日である。

完成した作品を嬉しそうになで回したり、360度なが  
めている子どもの目は輝いている。

それにしても毎学期末（ちょうど今の時期）心を痛  
めるのは「評定」である。個性化・個別化をうたいな  
がら、その子にあった励ましをしながら、最後に下す  
判決のように「評定」である。しかも個人の努力に応  
じてものではなく「相対評価」である。我が国がこの  
矛盾を乗り越えるのはいつのことだろう。

## わたしの学校・ わたしの実践



釧路市立桜が丘中学校  
奥田 泰朗

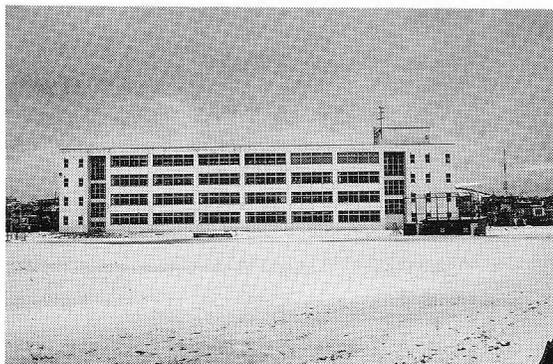
### 《学校の紹介》

本校は昭和54年に、隣の春採中学校が日本一?の生徒数になったために開校したと聞いています。

今年度で、開校15年目を迎えています。

校舎の形は単なる箱型（四角のビル）で、これ以降に新築されたものと比べると、味気ない所謂昔からの校舎のスタイルの最後のものかと思われます。

生徒数は最初の8学級平均24学級を最高に、現在は5学級平均15学級、522名と激減してしまいました。4階建ての校舎も、3階で充分間に合うようになりました。



### 《空き教室の工夫》

そこで、空き教室を単なる物置としないようにと、ここ数年様々な意見のもとに試行を繰り返しております。現在の配置が完璧なものではないでしょうが、一例として紹介します。

- ・卓球台を並べて、休み時間に一般の生徒に開放
- ・畳を常に敷いて、柔道室の確保
- ・2教室ぶち抜いて、コンピューター室に改造
- ・週番の専用会議室
- ・生徒会室と部活の用具置き場
- ・第2美術室

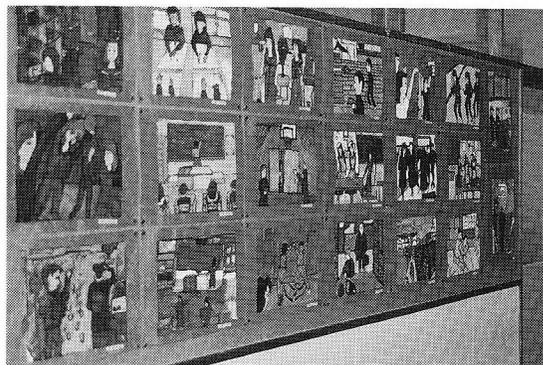
以上7教室を活用中です。

### 《校内展示について》

学校全体での取り組みを紹介しましたが、美術科として特別な実践はないものの、積極的な校内展示ということをご心掛けております。校舎そのものには、特に美

的要素がないので、内部から雰囲気をもたせる必要が出てきたということです。

実際には、一年間を通して考えた、校内展示計画まではいきませんが、行事（文化祭等）の時期はもちろん、平常の授業の作品もなるべくなら全員のものを極力展示するようにと、努力しています。



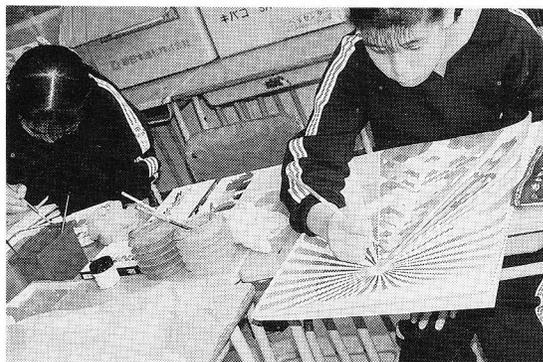
(1年—版多色版画)

他教科の先生と交渉して、4Fの廊下全部を展示スペースとして確保しました。最初は、休み時間毎に走り回って、作品に接触して破れる、特定の生徒の作品にいたずら書きされる等々の生徒指導面の問題を含んだ事例が報告されました。

もちろん生徒に直接的な指導をすることも大切ですが、きれいな公園にはゴミを捨てにくいということを意識して、剥がれたら修理する、画鋸はいつも4つでしっかり止める等を、何度も繰り返して行いました。

最近では、生徒が状況に対しての慣れも出てきて、作品が剥がれることはほとんどなくなりました。

校内展示をするということは、少なからず生徒指導の要素が絡むという実践を報告しましたが、確実に前の年度より、生徒作品のレベルが上がることを付け加えておきます。



(3年—立体感のある平面構成の授業)

# たのしみな20回展

## (北海道教育美術展)

北海道造形教育連盟の主要な事業の一つである「北海道教育美術展」が例年の通り開催される予定になっている。教育美術展というと難しく聞こえるが易しくいうと子どもの絵の展覧会である。今年度は、区切りのいい20回展を迎えるのでこの機会に子ども向けのかわいい名称が欲しいものである。

デパートを会場にして子ども達の作品が約1週間にわたって展示される。この会期には、幾組もの親子が会場に訪れ、わが子の作品を鑑賞する親のほほえましい姿が絶えない。幼稚園から小学校を含め中学校までの子どもの作品を全道規模で見られることは道内では他に例を見ない。

この展覧会は審査の形をとっている。審査会は年末に札幌在住の連盟の委員によって行われてきている。

全道各地から応募した作品の中から心引かれる作品に出会うとホッと、どの委員も疲れを忘れるものである。また、一枚一枚手にとって見ていると真面目に作品にとり組んでいる子どもや教師の姿が目に見えてくる。年に一度の審査会なので、図工の仲間や先輩諸

北海道造形教育連盟 事務局顧問

伊藤 英世

(札幌市立北光小学校長)

先生に会えるのが楽しみの一つである。先輩の先生から児童画の見方、考え方を学ぶ絶好の機会でもある。

審査の合間は、仲間と旧交を温める機会となる。このことがこの展覧会を20回も続けるエネルギーの基になっているものと思う。

全道各地から“児童の作品を入選させ、会場に展示させたい”“できたら奨励賞をとらせたい”“図工科の実践を確かめたい”など、さまざまな思いをこの展覧会に寄せている。

今年度から作品の送り先は、札幌市の東区の栄町小学校になった。出品されてくる作品の分類作業日に3日間もとり受け入れに万全を期している。旭川大会で応募要項が発行され、9月にはポスターが発行される。その後作品の到着を待っているのである。

図工科の実践を問うためにも、また子どもをはげますためにも是非出品してみませんか。

子ども、親や教師にとっても、また審査する者にも楽しみな美術展である。

## 第20回北海道教育美術展のご案内

「北海道教育美術展」は、第20回展を迎えることとなりました。

作品の質の向上をめざすと共に、参加校が増えることを願いながら企画・運営に当たってまいりましたが、昨年は、13,864点、262校の参加を見ることができ、連盟の趣旨が、全道各地に確実に広がりつつあることを感じております。

平成5年度、第20回北海道教育美術展の日程は下記のように決定いたしました。暮れには、子どもの思いがあふれた作品に出会うことを楽しみにしております。

昨年を上回る出品を期待しております。



- ・ 会 期 平成6年1月13日(木)～18日(火)
- ・ 会 場 札幌駅前さっぽろ東急百貨店10階
- ・ 表彰式 平成6年1月16日(日) 午後1時より  
札幌駅前さっぽろ東急百貨店モナリザスクール
- ・ 審査日 平成5年12月26日(日)・27日(月)
- ・ 締切日 平成5年12月16日(木)
- ・ 送付先 〒065 札幌市東区北36条東13丁目3-1  
札幌市立栄町小学校内  
北海道教育美術展係 宛
- \* 問合せ 札幌市立琴似中央小学校 小柳雄嗣  
011 (631) 6306

# 発色鮮やか広がるアート

## ニューサクラカラー



パネル制作



色も豊富に25色



600ml  
ポリビン容器入

WATER PROOF  
耐水性

### 特長

サクラニューカラーは、水溶性樹脂(アクリルエマルジョン)配合の木や布・石・金属・プラスチック・発泡スチロールと幅広い対象物に使用できる新しいタイプの絵の具です。

### 用途

共同制作、屋外展示作品、パネル、看板  
店頭広告、舞台装飾、室内装飾 etc.

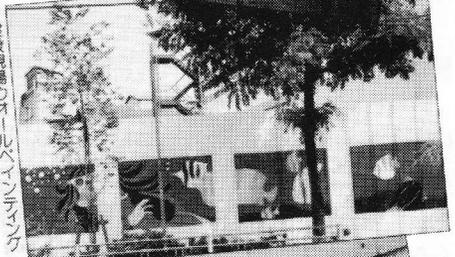
石・金属・プラスチックにもかける  
ニューサクラカラー



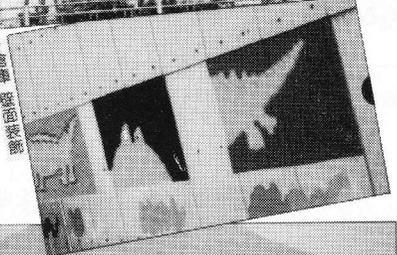
株式会社 サクラクレパス

大阪 千537 大阪市東区中道1-10-17 TEL(06) 972-1241(代)  
東京 千111 東京都台東区蔵前3-20-2 TEL(03)3862-3911(代)  
札幌 千064 札幌市中央区南四条西13-1-26 TEL(011)563-5161(代)  
名古屋 千482 名古屋市中区平安通1-5 TEL(052)981-7841(代)  
九州 千812 福岡市博多区住吉5-5-15 TEL(092)474-1182(代)

建設現場ウォールペインティング



倉庫 壁面装飾



防炎壁を使つての壁面制作

色名	標準	小売価格
しろ	ETPW# 50	1,100円
きいろ	ETPW# 3	1,100円
あか	ETPW# 19	1,300円
みどり	ETPW# 29	1,300円
あお	ETPW# 36	1,100円
くろ	ETPW# 49	1,300円
やまざくら	ETPW# 4	1,100円
ちいり	ETPW# 12	1,100円
しじり	ETPW# 18	1,300円
ほんざくら	ETPW# 25	1,100円
きみどり	ETPW# 27	1,100円
あからざき	ETPW# 124	1,500円
だいだい	ETPW# 5	1,300円
はだいろ	ETPW# 7	1,100円
おうといろ	ETPW# 15	1,100円
ピンク	ETPW# 20	1,300円
あかみどり	ETPW# 30	1,300円
くんじょういろ	ETPW# 38	1,300円
しもんいろ	ETPW# 2	1,100円
こげち	ETPW# 17	1,100円
むらさき	ETPW# 24	1,300円
あいら	ETPW# 42	1,100円
ローズ	ETPW# 120	1,300円
そらいろ	ETPW# 125	1,100円
オペラレット	ETPW# 121	1,500円

## あとがき

新しい学力観は造形教育の理念に限りなく近づいてくるように思われます。美術教育は子どもを育てるために必須なものとしてあるだけでなく教える側の意欲や生き方もまた心を通して伝わっていくように思います。それぞれの思いが深まる連盟報をめざしていきたいと考えています。

中居正光(東札幌小) 大場章子(美しが丘小) 今 裕子(真駒内緑小) 伊藤 尚(上野幌中) 毛馬内國夫(桑園小)